

13. 筋骨格系および結合組織の疾患

文献

藤本幸子、井上基浩、中島美和、ほか. 腰痛に対する腰部への鍼の刺入深度の違いによる治療効果の相違 ランダム化比較試験. 全日本鍼灸学会雑誌 2011; 61(3): 208-217. 医中誌 Web ID: 2012125252

1. 目的

腰痛に対する鍼刺入深度の違いによる効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

3 カ月以上持続する腰痛のみを有する患者、下肢症状があっても 3 カ月以上強い腰痛を自覚している患者、鍼治療を受けた経験がない等の研究条件に適合する外来患者 32 名

5. 介入

Arm 1: 浅刺群 16 名 (男性 8 名、女性 8 名、平均年齢 69.8±11.3 歳)。腰部の自覚的痛み部位 3~12 か所に切皮 (約 5mm) し、約 1mm 幅で雀啄を約 20 秒。

Arm 2: 深刺群 16 名 (男性 9 名、女性 7 名、平均年齢 68.8±11.0 歳)。同部位にステンレス製単回使用毫鍼 (0.18×40mm、セイリン社) を 20mm 程度刺入、約 1mm 幅で雀啄を約 20 秒。

6. 主なアウトカム評価項目

腰痛の Visual Analogue Scale (VAS)、Roland-Morris Disability Questionnaire (RDQ) 日本語版、Pain Disability Assessment Scale (PDAS)。

7. 主な結果

直後効果の VAS は、前後比較では両群ともに有意に改善し、群間比較では深刺群で有意に改善を認めた。経時的変化パターンは、VAS、RDQ、PDAS いずれも両群ともに有意な改善を示したが、両群間に交互作用を認めた。治療の継続による効果は、VAS は有意差なし、RDQ と PDAS は深刺群で有意に改善した。治療終了後の持続効果は、VAS、RDQ、PDAS いずれも深刺群で有意に改善した。

8. 結論

腰痛の痛み部位に対する鍼治療は、深部まで鍼を刺入する方がより効果的である。

9. 鍼灸医学的言及

鍼刺激による疼痛閾値上昇、筋血流増加について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載あり。有害事象、脱落例ともになし。

11. Abstractor のコメント

腰痛に対する鍼治療の効果について、刺入深度の違いによる比較を行った、意義深い研究である。二重盲検のみならず、被験者の盲検の成否についての検定、評価者の盲検も行った、優れた研究デザインである。さらに、4 週間のフォローアップも行い、終了後の効果についても検討している点でも評価できる。しかし、4 回の治療回数で持続効果について結論付けでおり、治療期間および回数が十分なのか、疑問が残る。今後は、被験者数と治療回数を増やした調査を期待したい。

12. Abstractor and date

保坂政嘉 2016.11.19